

放送日 令和2年11月2日(月)
担当者 市民参加・住宅施策課長 安田 将人

おはようございます。市民参加・住宅施策課長の安田です。

本日は、市民参加・住宅施策課の業務のうち、男女共同参画社会の推進についてお話しさせていただきます。

男女共同参画社会とは、性別にかかわらず個人の人権が尊重され、一人ひとりの個性と能力が発揮される社会です。地域活動や職場、子育てや教育、介護など、私たちの日常のあらゆる場面に密接に関わる身近な事柄であり、実現に向けて継続した取り組みが必要です。

現在、令和3年度からスタートする「第3次きたひろしま男女共同参画プラン」の策定を行っています。この計画は、今年度までを計画期間としている「第2次プラン」の策定後、「女性活躍推進法」や、「配偶者暴力防止法」などの法整備が行われているほか、ジェンダーやハラスメント、多様な性のありかたなどについての認識が高まっていることなど、社会情勢の変化を踏まえた内容となるよう検討しています。プランに基づく取り組みについては、関係部署と連携して進めてまいりますので、

引き続きご協力をお願いいたします。

男女共同参画社会の推進には、社会の一員である私たち一人一人が、性別による役割を固定的に考えることを無くするなど、個人が正しく意識し行動することが重要です。個人の正しい意識が広がって社会に浸透することで、例えばDVやハラスメントの防止、ワークライフバランスの実現といったものにつながりますので、これからも色々な機会を通じて情報提供を行ってまいります。

今月12日から25日までは、「女性に対する暴力をなくす運動」期間となっています。期間中は図書館に関連書籍のコーナーを設置していただくほか、12日から17日まで、エルフィンパーク交流広場でDV防止パネル展を行います。男女共同参画についての情報を共有する機会として、多くの方にご覧いただきたいと思っておりますので、ぜひ足をお運びください。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月4日(水)

担当者 職員課長 奥山 衛

おはようございます。職員課長の奥山 衛です。

10月から現在の職員課に異動しました。以前、係員としての業務経験はありますが、当時とは私たち地方公務員を取り巻く環境や給与制度なども大きく変わっており、日々、まずは勉強といったところです。

先日、北海道市長会主催の研修会に参加させていただきました。

講師からは「働き方改革」の実践について話がありました。

働き方改革は「個々の事情に応じ、多様な働き方の選択できる社会の実現」「一人ひとりがより良い将来を展望できるようにする」ことなどを目標としており、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少、育児と介護の両立などの就労ニーズの多様化に対応するとしています。

目標自体は素晴らしいことですが、では、これを実現するにはそうしたらいいかということです。長時間労働の是正、働きやすい職場環境整備など、「働き方改革」を実践しながらも、この厳しい社会・経済情勢の中で、市民ニーズを的確に把握し、サービスを充実・強化をしていくためにはどうしたらいいのか。簡単に答えはでてこない難問ではありますが、やはり、職員の英知を結集し、イノベーションにより組織を活性化させ、業務の効率化、生産性の向上に努めなければなりません。

市民の安全で安心した生活を守るために、また、

その先頭にたって働く職員の皆さんのためにも、あらゆる事柄に挑戦しなければならないと考えているところです。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「新北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月5日(木)
担当者 高齢者支援課長 工藤 秀之

おはようございます。高齢者支援課長の工藤です。

高齢者支援課では、認知症の高齢者の方などが行方不明となった際、地域の協力を得て早期発見・保護することを目的として、「認知症高齢者等SOSネットワーク事業」を実施しています。

徘徊するおそれのある高齢者等、現在100名の方に事前登録いただいております。警察や高齢者支援センター、社会福祉協議会、民生委員児童委員、自治会、消防署、消防団、商工会、郵便局、鉄道・バス・タクシー会社等の交通関係機関、医療機関、介護施設など関係機関との緊急連絡体制及び支援体制の構築により、行方不明者発生時、捜索にご協力いただいているところであります。

さらに、行方不明者発生時に、事前にメールアドレスを登録していただいた方に対して、行方不明者の情報を配信し、広く情報提供をお願いしているところであります。

今年度、SOS発令件数は4件で、うち1件は配信されたメールを見た市民の方からの通報により無事行方不明者を保護しております。

メール配信システムの登録者数は、市民を含め232名でしたが、先日、10月21日にメール登録に関する文書について課内回覧をお願いしたところ、新たに74名の方にご登録いただき、306名となりました。

ただ、職員・会計年度任用職員、この庁舎には、まだまだたくさんの方がいらっしゃいます。

本日、当課期待の新人、元警察官の浅野さんから、新着情報にて再度お知らせいたしますので、つつい登録を忘れてしまっていた方、是非ご協力いただきたいと思いますので、積極的なご登録をお願いいたします。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月6日(金)

担当者 高齢者・障がい者担当参事 柄澤 尚江

おはようございます。高齢者・障がい者相談担当参事の柄澤です。平成2年度採用の私は、この道30年の節目を迎えました。今日は30年前の自分と今の自分を比べて、大きく変わったことを話したいと思います。

私が入庁した当時は、保健師職7人全員が一つの係にまとまって仕事をしていました。入庁して半年後のことです。保健師の先輩たちが結婚や出産で3人も退職すると聞かされ、私は心細くなり、職場で泣いてしまいました。そして自分も退職しようと考えました。あの当時の先輩保健師はおそらく、こんな弱虫の私が30年も仕事を続けるとは思っていなかったでしょう。あの時どうして退職を思いとどまったのかはよく覚えていないのですが、家族や先輩保健師が止めてくれたことが大きかったと思います。そして、あっという間に10年が経った頃、中堅の保健師として精神保健業務を担当することになりました。私は看護学生の時から精神障がいのある方と接することに苦手意識があり、できるだけ精神保健のことに関わりたいと思っていました。そんな私が今のように精神保健のことに深く関わることを楽しいと感じるようになったのは、精神障がいのある当事者の方々と一緒に北海道が主催した「精神保健福祉フォーラム」というものの企画・運営に携わったことがきっかけでした。このフォーラムの準備段階で、最初は業務担当だから仕方がないと思って打合せに出ていた私でしたが、当事者の方たちと何度も話し合い、アイデアを出し合う過程で、当事者の真っ直ぐな気持ちに接し、一緒に活動することが楽しいと感じるようになりました。フォーラムの当日は鼎談という形で精神障がいの理解を広げるためのメッセージを発信することができました。このフォーラムを通じて、私が持っていた精神障がい者への苦手意識が随分変化し、もっと精神障がいのことを知りたいと思うようになり、現在に至ります。

入庁して半年で退職を考えた私、精神障がい者は苦手だった私が、今となっては障がい者や高齢者の相談を担当する管理職です。自分の経験から特に若手の皆さんに伝えたいことは、人は色々なきっかけや出会いで変わっていけるということです。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月9日(月)
担当者 健康推進課長 高嶋 真一

おはようございます。健康推進課長の高嶋です。

今年も11月に入り、秋から冬へと季節が変わろうとしておりますが、本日は、スポーツの秋についてお話しをさせていただきます。

皆さまは、オクトーバーランという言葉を知っていますでしょうか。10月の1カ月間に走った距離を専用の無料アプリにより集計をし、日本中の人たちと順位を競うイベントです。令和2年のオクトーバーランは、個人戦のほか、各自治体の登録者の平均距離を競う自治体対抗戦も実施され、私自身もチーム北広島市の一員として、参加をさせていただきましたが、参加者は、日々更新されるランキングに刺激を受けながら、走行距離を重ねていくという、大変素晴らしいイベントでした。

話は変わりますが、日本人の死亡原因の第1位は「がん」、第2位は「心筋梗塞などの心疾患」となっており、これらの疾患には生活習慣が深く関わっております。減塩や栄養バランスのとれた食事、禁煙、節酒、適度な運動の習慣化など、生活習慣を改善することにより、これらの疾患の予防につなげることができます。

生活習慣をガラッと変えることは難しいと思いますが、運動の習慣化のため、おすすめしたいのが、ジョギングやウォーキングです。ジョギングやウォーキングは、シューズがあれば、いつでもどこでも自分のペースで行うことができます。仕事が忙しい時でも、朝や夜など時間を見つけて行うことができますし、冬でも冬用のシューズがあれば快適に行うことができます。北広島市には、エルフィンロードやトリムコースなど、とても素晴らしい散歩コースがありますので、運動が苦手という方も、まずは、歩くことから始めてみてはいかがでしょうか。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月10日(火)
担当者 保険年金課長 林 正明

おはようございます。保険年金課長の林です。私はまだ本市が広島町であった昭和62年度に採用となり、当時の住民課国保係から公務員生活がスタートしました。

20代の頃は特に健康上の問題もなく、毎日元気ハツラツで仕事をしていたのですが、さすがに、人間56年も生きてると、身体のあちこちに不具合が出てくるもので、若い頃に健康に気を付けていればと、今になって激しく後悔するばかりであります。

さて、この「健康」という言葉繋がりで話を進めますが、「健康寿命」という言葉を皆さんご存知でしょうか？これは、西暦2000年にWHO（世界保健機関）が提唱したもので、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」とされています。平たく言うと、健康で元気に生活できている期間ということでしょうか。

平均寿命とこの健康寿命を比較したときに、差があまりなければ亡くなる直前まで健康に過ごしていたということになるのだそうで、そう考えると、平均寿命は延びても、健康寿命が短いとしたら、あまりうれしいことではないのかもしれませんが。ちなみに、平成28年においては、平均寿命に対し健康寿命が男性は8.84年、女性は12.35年短い数値となっています。

何をするにも体が資本。健康であることが第一と、昨年1週間入院して思いました。特に現在私たちが置かれている状況ではなおさらのことと考えます。自分自身の健康について意識し、平均寿命ぐらいに健康寿命が延びるようにしたいものです。そして、それが医療費の縮減にも繋がるようになるとありがたいです。

現在、新型コロナウイルスの影響が長期化しています。

新型コロナウイルスに強い地域社会を目指し、こまめな手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」の実践にご協力をお願いいたします。

放送日 令和2年11月11日(水)
担当者 西の里出張所長 高橋 陽子

おはようございます。西の里出張所の高橋陽子です。

10月1日付けの人事異動で、西の里に配置となって1か月と11日が経ちました。部署が替わる異動は久しぶりで、新たな気持ちで通勤しています。車で15分の通勤時間は今のところちょうど良いです。これからのシーズンは少し心配ですが…。

異動後の緊張感の中で、地域の皆さんにかけていただいた温かい言葉が、張っていた心にしみ込みました。職場の仲間にもとても助けられています。

ご存じのとおり、出張所では幅広い業務を取り扱っています。その多くは担当課に回付して完了する業務ですが、複数の用件をもって来庁される方や、話していくうちに求めや問合せが広がることもあり、何を望まれているのかよく聞くよう心がけています。その上で、不明な点は各課にお問い合わせをさせていただきますので、今後ご協力をよろしくお願いいたします。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。また、本日は毎週水曜日の一斉退庁日です。日頃から計画的に業務を行い、勤務時間終了後はできるだけ早めに退庁しましょう。

放送日 令和2年11月12日(木)

担当者 子ども発達支援センター長 濱田 真吾

おはようございます。子ども発達支援センター長の濱田です。子ども発達支援センターは、栄町の北広島エルフィンビルに移転をして、2年目を迎えました。

利用者からは、「施設が明るくなり、バリアフリーやセキュリティが徹底されて安心です。」などのご好評をいただき、お子さんの発達の相談に来所する市民にとっても、以前よりも気軽に利用できる場となっています。

昨年6月の移転からこれまでにオープニングイベントを含め市の内外から359名という多数の視察や見学者が訪れました。

視察にみえた他の自治体で、同じ業務をしている職員からは、「施設や設備など、随所に工夫が凝らされており、自分たちの施設の改修の折には是非参考にさせていただきたい。」との感想もいただいております。

例年であれば、市の新任職員研修時の市内施設見学の折には当施設でもお迎えしていたのですが、今年については新型コロナの感染拡大の影響により実施されていません。しかし、少人数であれば対応が可能ですし、今後新任職員を対象としたジョブローテーション研修も予定されていますので、興味のある方はお問い合わせ下さい。

また移転後は、新しい施設や設備の活用のために、市内の養護学校に対して施設の利用開放を行うとともに、新たな備品である介護リフトの講習会等を市内の支援者向けに実施してきましたが、今後も市民や地域に対して更なる施設の活用を目指して、どのような取組みが可能かを検討してまいりたいと思います。

なお職員の方でも、ご家庭内において介護リフトの導入を検討されている方は、子ども発達支援センターにて体験が可能ですのでご連絡下さい。

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月13日（金）

担当者 子育て・学童担当参事 石間 利恵

おはようございます。子育て・学童担当参事の石間利恵です。子ども達が、心身共に健康に育つための基盤となる生活習慣に、食事・睡眠・排泄・清潔・着脱があります。これは、小学生になるまでに身に着けておくものです。その中にある清潔は、掃除をすることや、うがい手洗い、歯磨きなど体を清潔に保つことで、感染症やウイルスから体を守ります。乳幼児期に身につけた習慣は、大人になるまでに育成し、社会生活の中で生かしていけるようになります。

この生活習慣は、家庭を中心に、毎日の生活の繰り返しから身につけていくものなので、いつも同じようにするのはとても大変です。特に、新型コロナウイルス感染症により、『新しい生活様式』を取り入れながら過ごすことは、慣れない状況に体調だけでなく、子どもも、親も不安を抱えているのではないのでしょうか？

現在のコロナ禍において、育児と児童の健全育成を支援するため、地域子育て支援センター「あいあい」では、親子で遊ぶヒントになるものとして、『おうちじかん』

の楽しみ方を紹介し、ペットボトルや新聞紙などの廃材を使った遊び方をホームページに掲載しました。児童センターでは、お便りにクイズを記載して、答えは遊びに来た時のお楽しみにし、足を運んでもらうようにしました。また、学童クラブでは、手洗いやマスクの着用に少しずつ慣れ、密にならないよう気をつけながら、友だちと楽しめるような遊びを工夫しています。

なかなか先の見えない状況で、親子が安心して過ごせるよう気持ちに寄り添いながら、支える職員も笑顔を忘れず、互いに意見を出し合い、力を合わせて乗り越えていけるようにしていきたいと思えます。

本日も、新型コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月16日(月)
担当者 すみれ保育園長 橋本 なつみ

おはようございます。子育て支援部すみれ保育園の橋本です。

私は今年度子育て支援センターから保育現場に戻り、5年ぶりに朝から元気あふれる子どもたちのエネルギーに刺激を受けています。そんな中、世界中を震撼させたコロナウイルス感染防止に伴い、保護者の皆さんに登園自粛要請を行いました。その為クラス運営はストップした状態となり、7月頃ようやく通常保育が始まりました。コロナ禍ゆえ大きな行事の一つである運動会は夏から秋へ時期はずれましたが、色々制約を設け無事に終了したのは嬉しい出来事です。

子ども達が安全安心に保育園生活を送れるように、職員一人ひとりが感染予防を念頭に行動しています。手洗い、うがい、マスク着用、健康チェック、園の換気に消毒を行っていますが、保育者や子ども同士の関わりでは三密を避けられない場合も多々あり、工夫しながら保育を進めています。

職員研修などもオンラインとなり、当分は画面を見てスピーカーから流れる声を聞いて会話していくことになりそうです。

最近の子ども達は、歌を覚えるのにテレビやYouTubeなどのスピーカーから流れる音になってきています。会話をする人の話を聞く、集団の中で話を聞くなど直接「人の声」を聞きとることが少なくなっています。子ども達にはたくさんの『声』を聞かせたいのです。それにはマスク越しではなく顔の表情が見えコミュニケーションを取ることです。それが普通になることを願わずにいられません。

余談ではありますが、先日コロナウイルス感染症で亡くなった志村けんさんの「から～すなぜなくの？」の曲がテレビで流れ私がその続きを口ずさむと、20代の娘が「この曲そんな歌詞だったの？」と驚き、私をもっと驚かせました。皆さんは「から～すなぜなくの？」の続きの歌詞を確かめる方法はどのようにするでしょう。近くの人に聞きますか？それとも直ぐにグーグル検索しますか？

本日も、コロナウイルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。

放送日 令和2年11月17日(火)
担当者 すずらん保育園長 砂金 智美

おはようございます。すずらん保育園園長の砂金です。

2月より新型コロナウイルス感染症対策が続いておりますが、保育園も消毒や行事の見直しをしながら日々の保育をしているところです。

ご想像どおり保育園は、ソーシャルディスタンスができず、3密にしかならない状況ですので30分毎の換気や遊び方の工夫など今まで以上に神経を使って保育をしています。家庭内保育など保護者の方のご協力で今までくることができました。

先週末の土曜日に、1, 2歳の発表会がありました。今年度すずらん保育園は、クラス毎の発表で日程も別々の日で開催し、保護者の方も1家庭2名という制限をつけさせていただきました。例年であれば、たくさんのお客さんの前で発表をすることに私が慣れていたせいか、少し寂しく感じてしまいました。

ただ、マイナスなことばかりではありません。このコロナ感染症対策でプラスのこともあります。子ども達が安全かつ伸び伸びと遊べるにはどうすれば良いのかを職員間で意見を出し合い、一緒に考える機会がいつにも増していることです。職員の協働の意識が高まっているのを感じます。

今後も皆で子どものことを第1に考えた保育を進めていきたいと思えます。

現在、新型コロナウイルスの影響が長期化しています。

コロナウイルスに強い地域社会を目指し、こまめな手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」の実践にご協力をお願いいたします。

放送日 令和2年11月18日(水)
担当者 稲穂保育園長 藤田 悦子

おはようございます。稲穂保育園園長の藤田です。

コロナに始まりコロナに終わりそうな今年度ですが、ここにきて一段と感染者が増加し、個々で予防対策はしても終わりの見えない状況に不安が大きいことと思われれます。

保育園でも日々の消毒、清掃、手洗い、換気ほか可能な感染対策を行い感染に繋がらないよう努めていますが、0歳から6歳までの乳幼児が自分でできることというに限られてきます。その中で重点的に行っているのが、手洗いと手指の消毒です。指先のみでなく、手の甲や爪の間に手首まで、丁寧に洗うよう声掛けや絵本、紙芝居他視聴覚教材を取り入れたりしながら年齢に合わせて理解し、興味をもてるようにすすめています。

繰り返しの中で、浸透してきている子ども達です。先日職員間で、毎年流行するインフルエンザ、溶連菌感染症、リンゴ病、胃腸炎など感染症が今年度は年明けから数名で収まり、感染拡大に至っていないのは、手洗い消毒効果もあるのではないかと話していました。

この事については、先月の園医健診の際に小児科の医師も同じ見解で、今年度のコロナウィルス感染症以外の感染症罹患者の少なさは、大人も子どもも手洗い消毒効果ではないかと、おっしゃっていました。以前、外出先のトイレで指先のみ濡らす程度で出て行ってしまう方がいたのを何度となく見たことを思い出し、その度に残念に思ったのと同時に、幼少期に携わる私達保育士は、子ども達が生活習慣を身につけ意識して行動できるようしっかり伝えていかなくてはならないと再認識させられました。あらゆる感染症対策として、丁寧な手洗い消毒を今後も継続して行っていきたいと思います。

本日も、コロナウィルス感染拡大の防止に向け、手洗いや咳エチケットの徹底など「北海道スタイル」を実践していきましょう。